

# 49ベンチャー ハヶ岳縦走 敢行！

2008年夏、49団VS隊は長野県から山梨県に亘り位置する日本百名山の一つであるハヶ岳の縦走にチャレンジ、無事成功させた。その記録を紹介する。

期 間 ; 2008年8月12日(火)

～15日(金) 3泊4日

メンバー ; チームリーダー Oスカウト(高3)  
食料計画担当 Fスカウト(大1)  
アドバイザー Y隊長(VS隊長)

## ■ 8月12日(火) 武蔵溝の口駅～茅野駅 ～ピラタスロープウェイ～白駒池

5:45 武蔵溝の口駅集合、チームリーダーの大役を担うOスカウト、緊張のためから時過ぎには既に到着していたとの事。余裕のFスカウトは、定刻に顔を見せた。各自で乗車券を購入、一路中央線茅野駅に向かう。俟約を旨とするVS隊は、急行・特急列車など一切利用せず、ひたすら各駅停車を乗り継ぐ。

茅野駅からはバスでピラタスロープウェイ山麓駅へ。ロープウェイは標高2233mの山頂まで僕らを10分ほどで運んでくれた。ここは縞枯山の一角で、「坪庭」と称する観光地となっている。



出発前のひと時

サンダルやハイヒール履きの観光客を横目に、昼食をとり活動着に着替えて出発の準備を整えた。

11:25 登山計画書を指定のポストに投函し、まずは「北横岳」を目指し出発。下界ではある程度の日差しがあったものの、ここは曇り空。時折濃いガスに巻かれる事もある。

観光客で賑わう「坪庭」のはずれに重装備を預け、軽装で「北横岳」までのピストンに向かう。

13:15 「北横岳」標高2472.5m、山頂着。ガスが濃く、展望は一切無い。10分の休憩で山頂を後にした。

14:15 重装備を預けた場所まで戻りオレンジを食した。再び重装備を背負い「縞枯山」に向け出発した。

15:20 「縞枯山」標高2403m

15:50 「茶臼山」標高2384m

16:50 「麦草峠」標高2120m

17:35 本日の宿営地「白駒池」到着。標高2110m。スポーツドリンクで本日の無事を祝い乾杯する。日が暮れるまでの僅かな時間で

急ぎテントを設営、夕食を準備した。夕食は豪華焼肉。食料担当のFスカウトが、このための肉を大切に運んでくれた。明日からは粗食か…。20:00消灯。



## ■ 8月13日(水) 白駒池～高見石～中山 ～天狗岳～硫黄岳～硫黄岳山荘

4:00 起床。予定起床時刻は3時、1時間の遅れ。早朝に降雨あり。今は雨も上り曇り空。朝食は「おはぎもどき」。米と里芋を同時に炊込み、出来上がりを混ぜると「もどき」のペースが完成。これを取分け、粒餡を乗せる。食べながら「おはぎもどき」と化す。

5:55 急ぎ身支度を整え出発する。予定のコースタイムを大幅に短縮し、「高見石小屋」に到着する。Oスカウト頑張る。

6:40 「高見石小屋」標高2280m

8:20 「中山」標高2496m

9:10 「中山峠」標高2380m

「天狗岳」の手前で森林限界を超える。10:25 「東天狗岳」標高2640m。ここで昼食のラーメンを食す。今回の昼食は総て、ラーメン。ラーメンは水を多量に使用する為、

屋食としては不向きのため反対したのだが、Fスカウト自らが水を運ぶと、ここでも頑張り実現した。とても頼もしく思う。



天狗岳からの降り

山頂で、中野5団VS隊、世田谷24団BS隊と出会う。中野5団は、蓼科山までの縦走、世田谷24団は、「天狗岳」を目指した山行との事。天候は優れず、ガスが多い。時々、「西天狗岳」への視界が開ける。予定では、「西天狗岳」へのピストンを予定していたが、朝の1時間の遅れ、天候不良を理由に、中止した。

11:30 「天狗岳」を出発する。

12:05 「根石岳」標高2603m

「根石岳」を越えた所で、高山植物の代表コマクサに出会うことができた。

13:20 「夏沢峠」標高2430m

森林限界を超えると広い尾根道が続く。数箇所の大らかなケルンに導かれ、「硫黄岳」へ向かう。

14:25 「硫黄岳」標高2760m

「硫黄岳」を出て10分もしない間に大粒の雨が降り出し、慌てて雨具を着装した。

14:40 「硫黄岳山荘」本日の宿営地に到着。標高2650m。本日もスポーツドリンクで無事を祝い乾杯。この近辺は野営不可地のため山小屋を利用する。小屋の周囲はコマクサの群生地。雨は一次的なもの。時折雲が切れ佐久方面の視界が広がる。

小屋の定員300名の所、本日の宿泊客は27名。とてもすいている。また、昭和61年に現皇太子がこの小屋に滞在したとの事。当時小屋の増



阿弥陀岳より赤岳を望む

改築があり、便所は総て洋式+ウォシュレットに改装。恐るべし宮内庁。我々も快適な山小屋生活を送ることが出来た。

5時過ぎから夕食準備。夕食は、レトルト牛丼。気圧の性か、ご飯は超アルデンテに。

20:00の小屋消灯前に就寝。

## ■ 8月14日(木) 硫黄岳山荘～横岳 ～赤岳～阿弥陀岳(ピストン)～権現小屋

3:30 予定通り起床。餅入り味噌汁で朝食を済ませる。

4:55 天候は昨日と同様。雨こそは降っていないが、ガスの中を出発。今日はハヶ岳縦走の最高峰、「赤岳」を目指す。何とか雲が切れることを望む。

高山植物のお花畑に見守られ、危険なクサリ場、梯子などを通過しまずは「横岳」へと向かう。

5:55 「横岳」標高2829m

7:45 「赤岳展望荘」標高2730m

クサリ場の連続を乗り越え、赤岳頂上小屋を経て、8:30 「赤岳」標高2899.2mの山頂に立つ。天候は会いも変わらず、ガスの中。諏訪側からの風が強くなり早々に頂上を後にした。

再びクサリ場の連続を覚悟し、御小屋尾根を降りる。キレット尾根への巻き道の分岐点に重装備を預け、「阿弥陀岳」へのピストンに向かう。

中岳のコルを越えると再び梯子、クサリ場が待ち構える。この辺りで、一次的にガスが切れ「赤岳」方面の視界が広がった。また、「富士山」も一瞬だが、望むことが出来た。



赤岳展望荘への登り

10:35 「阿弥陀岳」標高2805m 再びガスの中、山頂到着。昼食のラーメンを食す。のんびりした時間を過ごし11:20山頂を後に、来た道に戻った。

12:45 再び重装備を背負い巻き道を通りキレット尾根に向かう。この尾根は、崩れやすいガレ場となり、足場の不安定なクサリ場が続く。Sスカウトが「怖いよ、怖いよ」と呟きながらクサリ場を降り続けると、行き交うパーティーの不安顔が振り返る。

14:35 「キレット小屋」キレットの最低部に位置する。標高2460m。再び登り返し「権現岳」へと向かう。30mはあるのか、長い鉄梯子を登りきると「権現小屋」への分岐を右に分け「権現岳」へ。

16:40 「権現岳」標高2716m

16:45 「権現小屋」着。予定では、青年小屋のキャンプ指定地を目指していたが時間的に遅くなったため、無理をせず小屋泊とした。この小屋は、昨日泊まった「硫黄岳山荘」とは雲泥の差。昔ながらの山小屋、ランプの宿である。他の宿泊客は、50代の夫婦一組のみ。小屋番も一人。ランプの灯りが静かに灯る。

小屋は天水利用のため、宿泊者に支給出来る水は一切無いとの事。必要な水は、ペットボトルを購入するシステム。小屋の水を当てにしていたのであせる。ちなみに500mlペットボトル1本400円。ポッカで荷揚げしているためやむを得ない。各自の残り水をかき集め自炊する。夕食は、レトルトカレー。朝食用の水はほぼ無くなる。朝食は、当初の宿泊予定地まで進み対応することに。



## ■ 8月15日(金) 権現小屋～網笠山 ～観音平～小淵沢駅～武蔵溝の口駅

4:30 起床。残り水でお茶を沸かし、非常食のビスケットで飢えをしのぐ。

5:30 早々に「権現小屋」を後にする。昨日までほどではないが、簡単なクサリ場を何箇所か越え降る。合いも変わらず本日もガスの中だ。

6:40 「青年小屋」標高2380m着。改めて朝食とする。本日は終戦記念日。朝食は米2、サツマイモ8の雑炊で当時は愚ぶ。一時的にガスが晴れ、富士山の展望があった。



天狗岳下りから硫黄岳を望む

8:00 「青年小屋」発。  
8:30 「網笠山」標高2523.7m またしても、ガスの中の山頂。早々に山頂を後にする。降り始めると、軽装のハイカーと何度かすれ違う。人里に近づいた様子。

11:55 「観音平」標高1580m

12:25 標高1350m地点、昼食とする。最後のラーメン。最後の食事。

15:25 「小淵沢駅」標高880m到着。全員無事。最後の乾杯は、お茶とした。

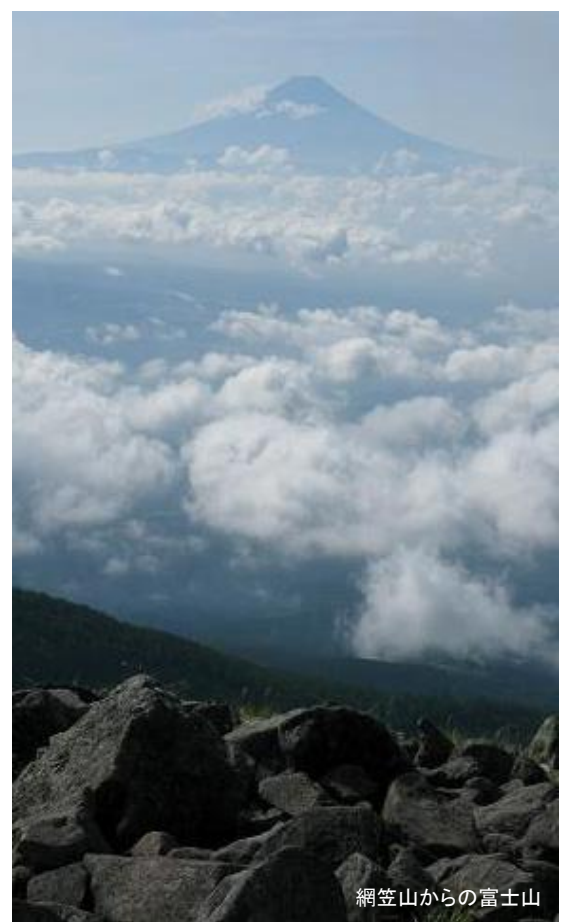


硫黄岳山頂にて

今回のVS隊夏期野営＝ハヶ岳縦走の参加者は、スカウト2名、指導者1名とやや寂しい構成となった。天候にも見放され終日曇り、ガスの中となった。しかし、収穫は実に大きかった。特にFスカウトの才能が最大限発揮されたことに尽きる。

単なる虫好きであったCSが今は、植物、生物にまで触角が伸びているようだ。高山植物など珍しいものを発見するたび、写メに収めていた。持ち帰り調べるとの事。また、昆虫の羽音、鳴き声等から、その昆虫の状態を推察するなど興味深い解説が随所で披露された。

Fスカウトはこの9月から、準指導者としてVS隊を離れるが、彼の才能が十二分に発揮されることを心より願う。(写真、文責; Y)



網笠山からの富士山



